

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2775502418		
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会		
事業所名	グループホーム 桜ヶ丘		
所在地	大阪府八尾市桜ヶ丘1-20		
自己評価作成日	平成 24年 4月 1日	評価結果市町村受理日	平成 24年 6月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JGD=2775502418&SGD=320&PCD=27
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 6月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとりひとりの『居場所』と『役割』があり、穏やかで楽しい空間と感じられる場所となることを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理事長が、母親の居場所作りという思いを込めて土地を提供し設立したグループホームです。駅やデパートがすぐ近くという立地条件にありながら、近くには公園があり窓越しには農園が見えます。利用者が第二の家と思える、「自分が主体の生活」がグループホーム本来の姿と考え、その人らしい暮らしを支援しています。食事の時間はあちこちから、「美味しい」と声が聞こえるのも自慢の一つです。かかりつけ医師による往診や医療連携体制等、医療面の支援も充実しており、利用者・家族の安心に繋がっています。管理者と職員のチームワークでサービス向上に取り組み、さらなる進化が期待できます。法人の名前のように、ほのぼのとした温かい雰囲気の中で、利用者・職員の明るく活き活きとした表情が輝いているグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念作成までは至らないが、事業所として大切にしたいことを、13ヶ条にまとめスタッフルームに掲示している。また、入職初期にグループホームの理念についてしっかり伝えるようにしている。	『家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を生かし、「自由」「尊厳」のある日常生活を過ごせるよう、継続的に自立支援を行います』をホームの理念として実践しています。また、職員の心得13カ条を作り、日常のケアに活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎日行く近くの公園で公園利用者仲間として一般の方との交流がある。また、隣の農地の農家の方とも気軽に挨拶したり農作物をいただいたりしている。	マンション住民が多く、自治会活動がない地域ですが、運営推進会議に出席する民生委員から、地域の情報を得られるよう働きかけています。毎日の散歩で顔なじみになった方とは、声を掛け合う関係になり、隣の畑で採れた野菜を頂く等と、地域住民との自然な交流も広がっています。近くのエステの店から、マッサージのボランティアに来てもらうこともできました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	特別な取り組みはしていないが、一般の方からの相談を受ける場所として、玄関前にポスターを掲示している。電話での相談等に対し、できるだけ丁寧に対応するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホームの実態を報告するとともに会議参加者からの色々な意見をくみ上げ、利用者の方のサービス向上に活用している。</p>	<p>運営推進会議は2ヵ月に1回、市担当職員、民生委員、家族の参加のもと開催しています。会議では、ホームの運営状況や行事の報告・予定、利用者の生活状況を報告しています。会議で出た意見を参考に、懐かしいビデオと音楽CDを購入し、利用者に喜んでもらっています。</p>	<p>会議は2ヵ月毎に開催され、討議内容はホーム運営に反映しています。しかし、今後は運営推進会議の規程、規約を作成し、より充実した会議になるよう努めることが期待されます。また、会議録を家族にも公表し、家族の積極的な参加を働きかけられてはいかがでしょうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>必要なこと、大事なことは、自己判断せずに、担当する部署に連絡・相談しながら対処するよう心掛けている。</p>	<p>日頃から何かある場合は、市の担当課へ相談するようにしています。市グループホーム協議会の会合に参加し、情報交換を行っています。他施設見学も予定されています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>フロアーの内側からは電子ロックを暗証番号により解除しないと解放されないシステムであるため、見直しをしたいが、改修の為に多額の費用が発生すると思われることで行き詰っている。</p> <p>直接的な身体拘束・身体抑制などはおこなっていないが、転倒リスクが大きい方の杖あるいは靴に鈴などをつけている。</p>	<p>最近ニュースになった、施設での高齢者虐待について話し合う機会を設け、改めて「尊厳」について検討しました。</p> <p>身体拘束のないケアを目指していますが、玄関に通じるドアは施錠している状況です。開放には多額の費用が発生するため、暗証番号を利用者から見えるように掲示し、開け方がわからなければ職員が開ける体制を作っていくことにしました。日常生活動作が低下し、転倒リスクが大きい利用者には、本人・家族了解のもと、状態が改善されるまで、一時的に杖や靴に鈴をつけることもあります。</p>	<p>玄関に通じるドアの施錠については、利用者が自由に行き来できるような対応を検討しています。今後は、検討した結果が実現することが期待されます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入浴時などを重点に、利用者ひとりひとりの全身状態の把握に十分な注意を払い、虐待行為が行われないよう事業所として細かく配慮を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>家族や身内に援助者がいないか適切な援助者がいないため援助必要とする事態になるときは、できる限りの援助を行えるように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	これまでの経験を隠さず、できる限り十分な説明を行うとともに、家族の理解を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	あらたまった場所は設定していないが、一階の玄関にご意見箱を設置している。また、面会時に直接、意見や要望をお聞きしている。	家族の面会時には、その都度声かけ等をして、意見や要望を聞き送りノートに記載し職員で共有しています。介護計画作成には、家族の思いや希望を聞きながら作成されています。敬老会、花見等に家族の参加を企画した行事があります。	一人ひとりの利用者の様子が分かるような「お便り」を発行し、家族への安心に繋がるよう検討されてはいかがでしょうか。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に必ず一回は、フロアごとの職員会議の場を設けており、職員の意見や要望などが出せる場として機能させている。	月に1回はフロアごとの会議を開催し、組織のありかたや行事、業務の見直し等について検討しています。外部や内部の職員研修についても、昨年より充実し研修後のアンケート等を実施しています。職員の発言や様子から、いきいきと楽しく働いている様子が感じられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ひとりひとりの働きを複数の役員の目で把握・評価し、その能力や意欲にみあったポジションに引き上げたり、格下げするなど、ひとりひとりへしっかりとめを向けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内部での研修による意見交換や事業所の指導による外部研修への参加者の伝達研修などを通して、それぞれの職員が資質の向上をはかれるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH 協議会の集まりに参加したり、施設見学などの機会を利用し他施設の情報入手し自施設への取り込み等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接段階で、現場職員も同行させ、必要な情報を把握するとともに、本人と面識を持つことに留意している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族との面接の機会やホーム申込み時等において家族様の要望をうかがったり不安におもうことを聞く時間を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談等があった場合、相手方の状況をしっかりと伺い、そのもとで入居利用以外に適切なサービスの活用の仕方や他の社会資源の利用等についてできる範囲でアドバイスさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々のこれまでの生活や性格、習慣などを尊重し画一的な生活の押しつけにならないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は利用者本人にとってかけがえない存在であるとともに、心の拠り所でもあることから、家族とも信頼関係を持ち、共に支えていく仲間として大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、付き合いのあった友人、知人が気軽に訪問していただけるよう時間、曜日の制約なく受け入れている。	近所づきあいのあった人や趣味仲間が利用者を訪ねることがあります。公園で花見をしている時に、日本舞踊の先生をしていた利用者に、他の団体から声をかけられ、利用者が活躍していた時のことを知り、一人ひとりの人生に思いを馳せることを職員は学びました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格、性質、年齢等配慮して食事のテーブル位置を決めたり、おしゃべりしやすい環境をつくるなどして相互関係づくりがすすむよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当方のできることや相手の希望されていることで対応可能な範囲で援助は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	主に入居初期に本人・家族の意向を把握するよう時間をかけている。 また、家族様やそれまでのケアマネジャーに情報をお聞きしている。	センター方式の様式を使い、利用者の思いや意向の把握に努めています。 職員の交替等により、全職員で情報が共有できていないこともあり、今後の課題としています。	入居時に聞き取った思いだけでなく、日々の支援の中で発見した事を気付きノートに書き留める等、思いや気付いた事を記録として残し、情報を積み重ねてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人あるいは家族様またはそれまでの担当ケアマネジャーから、本人のこれまでの生活について情報提供をいただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の疾病やそれによる活動への制約の有無、生活習慣、潜在能力等を把握し日常生活に活かせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>フロアーごとにケースカンファレンスを持ってひとりひとりの課題を考える機会を持ったり、家族様の面会時に時間をとって意見や希望をうかがうなどしており、集めた情報を介護計画に反映させている。</p>	<p>センター方式の様式を使ったアセスメントにより介護計画を作成しています。6か月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直します。モニタリングは3か月に1回、フロアの職員に聞き、ケース会議で話し合っています。介護計画は回覧して、職員間で共有しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日常の介護記録の中に、その日その日の本人の変化などの記録が十分に取られておらず、介護計画作成の材料とするにはまだ不十分である。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>外来受診への援助であったり、パーマやカット等への希望に応えた援助を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアなどの人的資源が、利用者の生活において豊かさをもたらすことが多いことから、人的資源の維持や発掘に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選定は家族様に委ねており、そのための事前情報を提供している。一任された場合、ホームとして選んだ理由を説明し了解をいただいている。また、医師と家族の間の適切な橋渡しを行っている。	利用者は、それぞれのかかりつけ医により往診を受けています。診療科目によっては、入居以前のかかりつけの医療機関への通院介助をしています。医療連携体制で、夜間や緊急時の対応も整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者にたいする医療的な情報のみならず、心身の状態の変化なども情報提供し、適切な医療対応が行えるよう連携している。 また、事業所としての感染対策や適切な住環境の整備のためのアドバイスなど、専門職としての立場からの援助を積極的に引き出すよう関わっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には必ず管理者あるいは介護職員が付き添い、必要な情報提供を医療金に対して行っている。また、可能な限り頻繁に状態把握のために面会に伺い、担当医や家族と情報の共有に努め、早期退院への援助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り指針を設けており、入居契約を行う際に必ず説明を行っている。</p> <p>これまでに、看取りの実績があり、どのような場合に可能か否かできるだけ具体的に説明をおこなうようにしている。</p>	<p>ホームにおける看取り介護の考え方、介護の具体的な支援内容・方法等を示した看取り指針を作成し、家族に説明しています。医療連携体制は、看取りケアの時も、「先生がうしろについてくれている」と職員は安心できています。今後は、受け入れ体制整備に積極的に検討していく予定です。</p>	<p>看取りの貴重な経験を活かし、受け入れ体制整備のマニュアル作成を期待します。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応マニュアルを作成するとともに、職員がすぐに確認しやすい場所に常に掲示している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>主に消防訓練を中心にして年に2回の定期訓練を実施している。日中の人手のあるときと夜間などの人でない場合の対応策などを常に課題として検討しながら進めている。</p>	<p>災害マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施しています。うち1回は消防署の指導のもとで行っています。非常災害用の備蓄も準備しています。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者に対する言葉づかいや接し方などは特に注意深く指導している。</p> <p>認知症があることで、職員本位に決めたり指示的にならないよう繰り返し指導している。</p>	<p>管理者は、日常の中での利用者の尊厳に配慮したケアについて、職員に具体的に伝えていきます。排泄介助時のプライバシーへの配慮、服の乱れや汚れへの気配り、義歯の取り外しは部屋で行う等、些細なことも「人として」と考えることの大切さを教えています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わからないと決めつけず、本人のできること、わかることなどを見極めながら個別にかかわるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いすることなく、本人の気分や体調、精神状態等を配慮して日々の生活にかかわるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いままでの髪型に合わせてカットや気染めを行ったり気に入った服装で過ごしていただけるよう個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備としての野菜の皮剥きや切り揃え、惣菜の盛り付け、食器のふき取りなどを分担しながら行うことで、食べるだけの人にならないよう配慮している。	職員はホームの食事を自慢の一つにしており、利用者も食事を楽しみにしています。食材は業者から取り寄せ、職員が利用者の好みに合わせアレンジして調理しています。下ごしらえ、盛り付け、配膳等、利用者それぞれが得意なこと、できることに参加しています。誕生会、敬老会、クリスマス会等の特別食は食材の買い出しからして作ります。手作りのおやつも利用者には喜ばれ、調査訪問時は、おやつのお好み焼きを食べ、あちこちから「美味しい」との声が聞こえてきました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量をチェックしており、日々の体調、嗜好、精神状態や食事環境など、総合的に判断して美味しく楽しく食事がおこなえるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後や食後などひとりひとりの口腔ケアを介助して行っている。 また、本人の同意の取れる方には、週に一回、訪問歯科による口腔ケアの利用をすすめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用具の使用は必要最低限にとどめ、できるかぎり気持ちよく安全に排泄が行えるように援助している。	「トイレでの排泄が人として普通の事」との考えを大切にしています。排泄の記録をとり、排泄パターンや習慣を把握して誘導しています。日中は全員、トイレ誘導です。入居後、オムツからリハビリパンツに代わった利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後に冷たい湯冷ましを提供し朝の排便を促すよう工夫している。また、できるだけ水分を十分とっていただけるように、こまめにお茶や飲み物の提供を行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や曜日の制約は解消できないが、入浴を気持ちよく感じていただけるよう時間的な余裕をもって対応している。また、無理強いせず、拒否の強いときは翌日に振り替えるなど柔軟性をもたしている。	入浴は、基本的に1日おきとなっておりますが、希望があれば、毎日でも入浴してもらっています。入浴を好まない方には、無理強いせず、時間や日を変えて入浴してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それまでの生活習慣を把握し、個人のスタイルに合わせてゆっくの目に就寝したり早く起床されたり本人のリズムで暮らせる援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食前、食後や寝る前など、ひとりひとりの服薬状況が分かるようにしてあり、また、内服の実施・中止の基準を明示し、個人の状態に柔軟に対応することができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節感の感じられる行事を取り入れたり、誕生日会やおたのしみ会なども企画し、単調で楽しみのない生活になせないように工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援はまだ限られた範囲であるが、毎朝、交代で散歩にでるなどして少しでも外へでる機会を持つように努めている。	毎朝交代で散歩に出かけています。散歩の途中の公園では、顔なじみになった人たちと声を掛け合っています。初詣や花見に出かけました。花見の際は、家族も参加し一緒に楽しみました。今後は、ボランティアの協力も検討し、外出の機会をより多く作っていく予定です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しくトラブルの原因になるため、個人的な所有は控えていただいている。職員同伴で買い物に行く場合は、建て替え金で支払を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様からの電話があれば、本人に取り次ぎ、直接会話をさせていただくようにしている。希望者には年賀状などの作成の援助を行っている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、常に清潔で落ち着ける場所となるように気を配っている。 季節感を感じられるような演出をしたり整理整頓を心掛けている。 また、椅子・テーブルなどの使い勝手も配慮して場所や高さの調整をしている。	広い共有空間があり、食堂と居間、ソファがいくつも置かれ、ゆったりと設定されています。大きな窓越しには、隣接の野菜農園が見渡せます。フロアからは自由に外に出ることができ、外に置かれているソファで寛ぐこともできます。キッチンも広く、食事を準備する匂いや音から、利用者は食事を楽しみに待っています。季節感のあるタペストリーや手作りのカレンダー、アートフラワーが置かれ、家庭的な雰囲気です。快適な生活のために、清潔にも気をつけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のときのテーブル席は決めているが、それ以外では、自由に過ごせるよう長椅子、ソファなどを配置したり、車いすのままでの移動がおこないやすいように環境に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス等予め用意しているものの利用にとらわれず、使い慣れた家具や本人の気に入ったものを持ち込み利用していただくようおすすめしている。	ベッドとタンスはホームで準備していません。利用者はそれぞれ、テレビ、ソファ、飾り棚、机、家族の写真等、使い慣れた物を持ち込み、個性溢れる居室になっています。一人ひとりのロッカーが廊下があり、衣類等が保管されています。自分の部屋を案内してくれた利用者の誇らしげな表情に、その人らしい暮らしを支えるケアが伺えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置や自分の居室が分かりやすいようその人に合った目印をつけている。椅子やテーブルの高さに配慮し、また車いすの移動が行いやすいように空間をあけたりしている。		